

第2回先進的まちづくり大賞 国土交通大臣賞

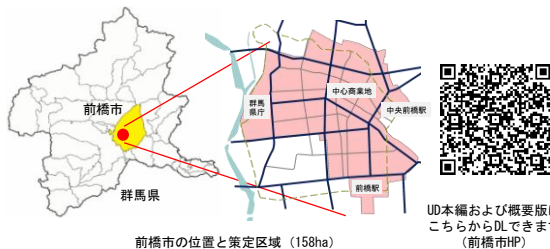
取組名：前橋市アーバンデザインの策定とその後の民間主体のまちづくり

受賞者：前橋市（群馬県）、一般社団法人前橋デザインコミッション

受賞理由：中心市街地の目指すべき将来像について、市民の思いを市民中心に議論し、まちづくりのビジョンの作成と共有、民間主体のまちづくりを推進するための指針（アーバンデザイン）を市の既定の計画に位置付けなおす手法や、それらを比較的短期間で達成した点は先進性や独自性が高い。また、民間が主体的に関わる小規模なアクションを展開していく組織や、構成企業の利益の一部をまちづくりに寄付していく団体の存在等、取組の端緒ではあるものの今後の展開が期待されることが高く評価されました。

1. 地区の概要と課題

前橋市は群馬県の県庁所在地で、東京から北へ約100kmに位置する中核市。中心市街地は都市の郊外化による人口拡散、店舗・事業所の撤退とそれに伴う空き家の増加など、多くの地域課題が存在し、まちが目指すべき将来像のイメージが無いことから、様々なまちづくり活動の方向性が定まっていなかったことが課題だった。そのため、長期的視点に立った官民共有のまちづくりビジョンを掲げ、市民、企業、行政それぞれが互いの垣根を越えて「自分ごと」として地域課題を捉え、自主的に課題解決に取り組み民間アクションを促進する必要がある。また、そのビジョンに沿ったまちづくりを担い、推進役となる民間組織が不在であることも課題となっていた。

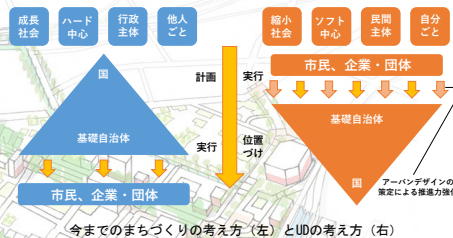


2. 取組概要

上記の課題から、下記に示す考えのもと、官民で共有する中心市街地の将来像である前橋市アーバンデザイン(以下UD)の策定に取り組んだ。(期間：2018年9月～2019年9月)

■ビジョンの可視化

UDは官民で将来ビジョンを共有するために、イメージパースや図、写真等を多く採用した。民間の意見を視覚的に示すことで、具体的に将来イメージの共有が可能となった。ただしこれは、整備を強制するものではなく、官民の役割分担のもと、今後のエリアマネジメントに発展させるきっかけとしての将来像だということを策定関係者に繰り返し説明し、イメージパース作成についての合意を得た上で作成した。

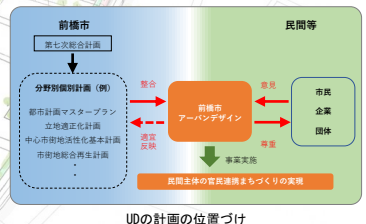


■実効性の伴う計画づくり

策定後に自発的に民間アクションが起こることをねらい、まちづくりに対する熱意や実行力があるまちづくりプレイヤーになりうるキーマンに直接参加依頼をし、ワークショップを実施。ワークショップで出た意見をまちの将来像に直接反映した。

■計画の位置づけと固定されないアクション

UDは民間の意見を尊重しとりまとめたものであることから、行政計画に位置付けていない。これからのまちづくり主体が行政でなく、民間であることを意識づけるため下図に示す位置づけとしている。また、UDは一度決めた計画を数十年のスパンで遂行することを目的としていない。5年後、10年後といった近い将来の状況が読めない昨今、UDでは不変の共通理念を掲げ、それに基づく小さなアクションによる小さなサイクルを継続して回し、徐々に広げていくような、理念に沿った固定されないアクションを推奨する。



■「ビジョンプラン」と「アクションプラン」

今までのまちづくり計画は、官民で将来像を共有するための「ビジョンプラン」のみ策定する例が多く見受けられたが、UDでは将来のエリアマネジメントを見据え、「デザインガイドライン」や「モデルプロジェクト」などを「アクション・プラン編」として位置付け、早期の民間アクションにつなげる構成とした。

3. 発現した成果

■前橋デザインコミッション(以下MDC)の設立

ワークショップ参加者や地元企業、団体、個人等の有志により民間まちづくり法人として2019年11月に設立。行政資金に頼らず、全て会費により活動を行っており、現在106の賛同者から1500万円を超える活動費のもと、民間まちづくりを展開している。

■UDに沿ったアクション

UD策定後には家守会社の設立とそれに伴う公共空間や低未利用地の利活用、新規店舗の出店や若者居住シェアハウスの誕生等、民間主体のアクションが次々と展開。



策定ワークショップ

4. 今後の展開

■エリアプラットフォームの組成

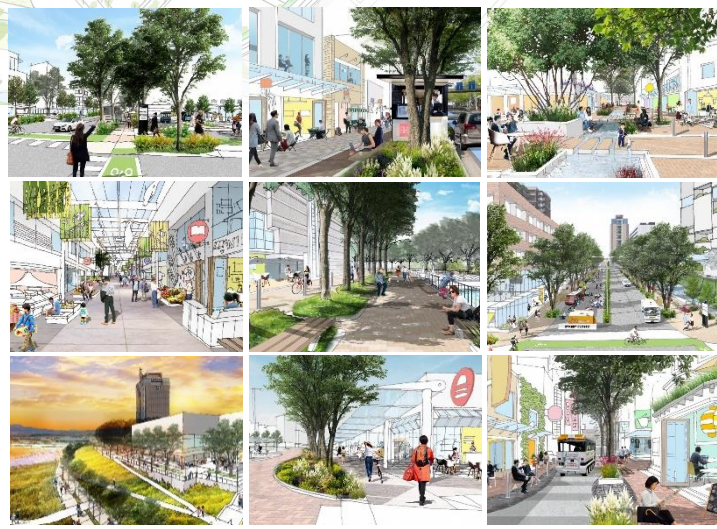
都市再生推進法人のMDCや前橋市まちづくり公社をはじめ、行政や民間団体、地元大学等と連携し、エリアプラットフォーム(UD協議会)を組成。官民の情報共有や連携事業の検討の場として運営・実行していく。



UD案のプレゼンテーション

■UDのモデルプロジェクトの推進

広瀬川河畔緑地の公共整備において、UDの策定をきっかけに周辺エリアの民地を含めた一体的なエリアリノベーションを民間と共に計画しており、人を中心とした居心地が良いエリア形成を目指す。また馬場川通りにおいては、MDCを中心に民間資金と創意工夫によるエリアマネジメント計画を進めている。



まちの将来像イメージパース

MAEBASHI TIMES

